

庄内地域

高品質大豆生産のための耕種基準

	立 地 条 件	生 育 の 特 徴
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> 海洋性気候で、風が強く温度較差が小さい。 年間降水量は1,800mm前後で、その約半分は作物生育期の4～10月に降る。 土壌はグライ土が多く、透水性に劣る反面生産力が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 圃場の透水性が劣るため、湿害による生育停滞が起きやすい。 秋冷が比較的早いいため、秋作業の適期が限られる。
改善目標	<ul style="list-style-type: none"> 石灰資材施用による土づくり 春作業の促進による適期播種の実施 早生品種の作付けによる適期刈取推進 	<ul style="list-style-type: none"> サブソイラーによる排水対策 効率的な機械化作業体系の定着

2. 想定経営体

(1) 大豆栽培面積 30 ha (内作業受託25 ha)

土壌条件：細粒強グライ土

(2) 組 織 作業受託組織 オペレーター2名

(3) 使用機械と作業体系・作業時間

作 業	排水対策	施 肥	耕 起	播 種	除草剤散布
使 用 機 械	サブソイラー	ブロードキャスター	トラクター30P、ロータリー	ロータリー、播種機(3条)	ブームスプレヤー
内 容	心土破碎(隔年)	石灰資材化成肥料散布	荒起し耕起	種子消毒 整地・播種	土壌処理剤の散布
作業時間 hr/10a	0.3	0.1	0.4	0.6	0.4

作 業	中耕・培土	病虫害防除	収 穫	乾燥調製	合 計
使 用 機 械	カルチベーター	無人ヘリ	大豆コンバイン 2条、軽トラック	委託	
内 容	中耕と培土	紫斑病と害虫防除	刈取り 運搬		
作業時間 hr/10a	0.6	0.1	1.2		3.7

3. 栽培技術の特徴

- 機械化による効率的な作業体系
- 排水対策の実施
- 病虫害防除、肥培管理など適期適作業の実施
- 適正な乾燥調製による品質向上

高品質大豆生産のための栽培管理の要点

品種及び生育目標

品 種	品 種 の 特 徴	栽植本数	うね幅	株 間	播種量	開花期	成熟期	主茎長	分枝数	百粒重	目標収量
スズユタカ	中晩生。ウイルス極強。生育量多。 良質多収。	13,000～ 17,000/10a 6月上旬播種	60cm～ 75cm	20cm (2本/株)	3.6～4.7 kg/10a	8月2日	10月17日	66cm	5	24g	300
リュウホウ	早生。ウイルス中。大粒良質。 は種時、7月上旬にアブラムシの防 除を実施する。	13,000/10a 5月下旬播種	60cm～ 75cm	20cm (2本/株)	4.3～5.6 kg/10a	7月25日	10月3日	60cm	4	30g	300

施肥・土づくり

品 種	土づくり肥料	ようりん	苦土石灰	堆きゅう肥	基肥 NPK	追肥 N 種類	特 徴 あ る 栽 培
スズユタカ	隔年施用	60 kg/10a	100 kg/10a	1.5 t/10a	2.4-7.2-9.6 kg/10a	7月上～中旬 7 kg/10aLPコート	培土期追肥
リュウホウ	隔年施用	60 kg/10a	100 kg/10a	1.5 t/10a	2.4-7.2-9.6 kg/10a	7月上～中旬 7 kg/10aLPコート	培土期追肥

月 旬	4 月		5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月			11 月			
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育時期					リュウホウ播種			スズユタカ播種		6 葉期			開花期 リュウホウ (7/25)											
管理の要点	管	排水対策 サブソイラー	土づくり	耕起	種子準備	明きょ手直し	排水路点検	中耕培土	明きょ手直し	追肥	中耕培土	干ばつ時灌水	排水路点検		コンバイン保守点検			コンバイン計画樹立	収穫リュウホウ	収穫スズユタカ	乾燥・調製	耕起整地		
	防				(根粒菌)	忌避剤	(アブラムシ防除)	除草剤散布 (タネバエ防除)	(除草剤散布)		畦畔除草		(アブラムシ防除)	マメシキイガ防除 紫斑病防除		畦畔除草			雑草抜き取り					